

「せやろがいおじさん」

朝が比較的ゆっくりできる私は、朝の報道番組やワイドショーを見ている。どの局の報道も視点は国民目線だが、明確な主張はせず問題提起をするのみに納めている感じがする。世界の報道自由度ランキングによれば、日本は66位(180国中)と、実は報道の自由度が低い国と評価されている。報道内容に圧力がかかっているというまことしなやかな噂もあり、賛否両論を紹介しながらも、明確な主張は述べずに無難な路線をいっている。静かに「言論・報道の自由」が阻害されつつありそうだ。

そんな報道番組の中で、4チャンネルの「グッドラック」は問題提起しながらそれなりの主張を打ち出そうと、立川志らくやコメンテーターが奮闘している感がある。とりわけ、コメンテーターに橋本徹元大阪市長が登場すると、彼の主張に全て賛同するわけではないが、結論へ向かおうとする強いベクトルを感じることは認めざるを得ない。

中でもわたしは金曜日のグッドラックをとっても楽しみにしていた。なんといっても赤いTシャツ赤いふんどしの「せやろがいおじさん」がシビアな事柄の時事問題を正面から、しかもユーモアに論じる姿勢に私の好感度バロメーターは上昇していた。本名は榎森耕助、まだ30代前半、芸人ユーチューバーらしい。芸人や芸能人の政治的発言に違和感を持つ人が多いが、彼はそれを気にせず沖縄の美しい海を背景に自らの主張を早口で展開している。

何しろ例え話がうまい。收拾のつかない意見の対立を「フグを食べたいけど、毒があるから食べない人」と「毒はあるけどおいしいから食べる人」の対立になぞらえて、お互いが自分の正当性のみを主張せず「対話」をすれば、「毒を除いたおいしいフグをみんなが食べられる」という新たな結論にたどり着くと言う。テレビに登場する評論家諸君にはない視聴者目線に沿う、わかりやすくシビアな解説・問題提起であり、最後には「せやろがい！」と叫びながら海に飛び込んでコーナーは数分で終了する。

議論とは、そもそも多数決という採決に向かっているわけではない。お互いの主張を傾聴しながら、妥結点と合意点を導き出す作業のはずである。海の向こうではトランプ氏とバイデン氏、わが国では与党と野党、大阪では大阪都構想など、不毛の議論が見え隠れする。

残念でならないのは、この「せやろがいおじさん」のコーナーが9月で終了してしまったことだ。

(丹羽 豊)